

平成 20 年度 第 2 回特定調達品目検討会（古紙偽装問題検討第 6 回） 議事要旨（案）

日 時：平成 20 年 6 月 27 日（金） 10 時 00 分～12 時 00 分

場 所：経済産業省別館 10F 1014 会議室

出席委員：指宿委員、岡山委員、河野委員、斉藤委員、辰巳委員、奈良委員、原委員、原田委員、平尾委員、安井委員（座長）

欠席委員：奥委員、乙間委員、酒井委員、永田委員（五十音順、敬称略）

1. 古紙偽装問題に係る特定調達品目検討会とりまとめ（案）に関するパブリックコメントの結果について

- ・ 偽装が発覚した時は、グリーン購入の基準が厳しすぎるのではないか、そもそも古紙のリサイクルは環境に良くないのではないか、という意見が多くあった。今回のパブコメではそのような意見がほとんどなく、古紙リサイクルの推進を進めるべきという考え方を認める意見が主であるという理解でよいか。
- ⇒ そのとおりである。（環境省）
- ・ 今回の古紙偽装について、製紙メーカーの責任がまだまだ甘いと考える。メディアを通じ製紙メーカーから国民に対する説明を行っていただきたい。
- ・ パブコメの求め方がグリーン購入法との関わりからであるため、製紙メーカーに対しての処罰のみに触れられているが、製紙メーカーの全体が怠慢であったという点は、この検討会の意見としてきちんと出しておくべき。対応方針については、「適切な対応と国民への説明を求める」ということを明記していただきたい。
- ・ 資料 2 は「方針」と「対応」が使い分けられているのか。
- ⇒ 「方針」という書き方に統一したい。（環境省）
- ・ LCA 評価については、資料 2 において対応や方針が示されていないが、意図があるのか。
- ⇒ LCA 評価については、資料 3 のとりまとめ案で今後きちんを検討すべきと記載しているため、ここでは割愛している。（環境省）
- ・ パブコメの意見を集約した全体像を明確に示すべき。リサイクルの議論にとどまらず、紙の使用量の削減推進や、具体的な森林認証の話など、一步進んだ意見が多く出てきていることから、国民の意識がこれほど進んでいるということが伝わるような書き方にする必要。紙戦略に関する議論を国民が求めているということは記載できるのではないか。
- ⇒ グリーン購入法の枠を超えるが、そのようなことが国民から求められているという旨は伝えるべき。
- ・ 製紙メーカーや機器メーカーがどのような意見を出しているのかは明記できないのか。
- ⇒ 特定の事業者の意見が明確にわかると色々問題が起こるため、その部分は開示をしないで整理をしている。誰の意見かが、できる限り伝わるように配慮はしていきたいのでご了承いただきたい。（環境省）
- ⇒ 製紙会社からのコメントもこれくらいはあったということではできないのではないか。事務局で検討していただくようお願いする。

2. 古紙偽装問題に係る特定調達品目検討会最終とりまとめ（案）について

- ・ 製品テスト等のアクションスケジュールについて、優先順位を示していただくとわかりやすい。
- ⇒ 製品テストについては、21年度の予算要求を行う予定。座長とも、実施要領等の部会を作ってはどうかということも相談している。紙の問題は本検討会で検討すべきか、分科会で検討すべきかを含め、座長ともご相談し、次の検討会までに体制を明確にしておきたい。（環境省）
- ⇒ 紙の基準については、供給側がものをちゃんと出していけるというのが出てこない限り検討のスケジュールが組めない。スケジュールを表示するには、もうしばらく状況を見る必要がある。（環境省）
- ・ とりまとめ案の参考資料は、後ろにまとめてつけていただきたい。また、何が問題だったのか、という点と検討会ではどのようなことを検討し、今後どう対応していくかという点、それから、具体的には検討できないが、残っている課題について整理した資料が2枚程度でまとめられていると一般の方にもわかりやすい。
- ・ グリーン購入の制度には何も問題はなかったことを示すことが重要。制度としては何もやらないということを明示した上で、課題については整理すべき。
- ⇒ 他の制度といかに連携をとるか、偽装に対する監査をどのように進めるべきかという、今まであまり考えてこなかった部分に対処する必要はある。
- ・ 食品を始め、今、偽装表示が大変多い。製品テストのあり方、表示のあり方など、偽装について、国が仕組みとしてどう関われるかということの全体的な提案にもなると考えるので、グリーン購入法を超えて、課題を記載したらよいのでは。
- ⇒ 課題の中でグリーン購入法がどう関わっていくか、という問題の整理の仕方の方がよいと考える。
- ⇒ あくまでもこの検討会はグリーン購入法にあるが、やはり他の制度との連携、それから全体の方針としてはなかなか言い難いところがあるので、そこをどうするか考えていくというのは適切な判断である。
- ・ 再発防止に向けた取組みについて、環境に配慮されたバージンパルプ、間伐材などの定義を早急に検討すべき。古紙の輸出状況もどのように変わるかわからない中で、今後需給が逼迫したときに、製紙業界が原材料のデータを収集し公開、共有していくことが技術的な面からも再発防止につながると考える。そういう意味で、間伐材、森林認証材の供給量等のデータを、A4で半分～1枚にまとめたものがあるとよい。製紙連合会には、地道なデータの取得やその公開について尽力していただきたい。
- ⇒ そのとおりだと思うが、特に紙以前の原料、製紙原料というと木材という話になるため、なかなか難しいところもあるのではないかと。
- ⇒ そういう意味では、ここには入れないほうが良いと考える。今般の責任は誰が取るかという話では、サプライチェーンの関係が把握されておらず、未熟な段階。サプライチェーンの管理をどうするのかは、今後この検討会で十分議論すべき。
- ⇒ 中長期的な課題と考える。若干その点に触れておくということであれば無理がないのでは

ないか。

- ⇒ 製紙メーカーの責任を曖昧にしてしまうのは良くない。
- ⇒ 他の仕組みとの連携ということで考えると、林野庁が間伐材の補助金を出しているのに、紙にうまく使われてこない、というのも確かに問題。少し視野を広げておく手はあるかもしれない。
- ・ 現行基準を維持するとの結論はいいが、その理由として国の調達に古紙 100%を満たせばよい、としている点は問題。国民の関心がこれほど高いのに、地方公共団体等が調達できない場合について、エコマークや GPN のガイドラインを示しても、これらも紙に対しての判断は今検討しているところ。地方公共団体や民間のグリーン購入への取組みについて、もう少し配慮が必要。バージン分について極めて短期的に何らかの判断を出していくようなことも明確にしないと困るのではないか。
- ⇒ 国の調達だけが満たされればよい、ということではなく、古紙配合率 100%の製品を作る努力をしている製紙メーカーを応援し引っ張ることが必要ではないか。供給量についても、地方公共団体と民間を含めた需要の 30 万トンは時期が経てば満たせる可能性もある。地方公共団体や民間企業には、現在供給されている偽装のない製品を確認して調達を進めて頂き、100%製品を出して欲しいとメーカーにはプレッシャーをかけていきたい。
- ・ グリーン購入法は製品の購入からの取組みだが、原料から製造・廃棄の物質循環全体を見ながら考え、ものの使われ方全体を考える中でグリーン購入法をどのように生かしていくかということを書き込めないか工夫したい。指宿先生が仰ったデータの公表については、製紙メーカーに伝え公表を促していきたいと考える。（環境省）
- ・ P18 の書き方。「パブコメに供したのち」、とある部分について、パブコメの中では、判断の基準を変えるべきという意見が多くなかったということを書き込むべき。
- ・ この文章だけでは国さえ良ければよいという考え方という印象で、違和感を持つ。どのように表現するのは難しいが、外部からの声で事業者が変わるということを丁寧に示してほしい。また、P3 の「信頼の回復に努める」という表現ではなく、「信頼を得られるよう」というような書き方にすべき。
- ⇒ いいところ取りをしようというような考え方でグリーン購入法に乗ってきた一般企業の責任をどこかで追及したい。それを考えると、どのような記述にすべきか。5~6 万トンの供給が見込まれるが、それ以上の供給量を増やすような方向性を一般企業も後押しすることがのぞましい、というようなことを書き込めないか。
- ・ 今回の問題は PPC 用紙。印刷用紙は問題ないと思う。コピー機メーカーは紙とのインタラクションを昔は考えて技術開発を行っていたが、今は切っているところもある。コピー機メーカー側に対しても、古紙配合率 100%の紙に対応できるような機器の開発を促してもよいのでは。
- ・ 古紙の基準はそのまま、チェックシステムを組み込んでいくこととしているが、他の品目の基準とのバランスも考えて行うべき。
- ・ 再発防止に向けた取組みについては、現状においてはこれでよいと考える。製品テストについては、国が税金で行うべきものではなく、本来は、企業が第三者機関に依頼し手数料を払って証明書を取る、というのが望ましいあり方であり、一つのビジネスになるような形で構想されるのがよい。

- ・ エコマークでも、偽装発覚以来、認定商品が減っている。消費者が、グリーン製品がないことで、グリーン購入をやめてしまうのは残念。製紙連合会の内部監査のシステムを生かすような取組みが必要。当面はこれでやっていくことが大事だと思うが。古紙だけでなく、環境にやさしいバージンパルプという古紙に並ぶようなものを消費者に届ける状態を作っていないと持続しない。今後の課題として検討を進めていく必要。
- ⇒ 製品テストは大きな課題。他の制度との連携も重要になる。グリーンマーケットの減少についても、これを一つのバネとして次へ進まなければならないことだと考える。本日、色々なご意見をいただいたが、課題は事務局で適宜整理していただきたい。

以上